

§ 6-1. 社会環境学科 / Dept. of Socio-Environmental Studies

1 ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針) とカリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

■教育研究上の目的

環境に関わる諸問題に関して主として社会科学の立場からアプローチし、社会の仕組みを理解した上で、環境調和型の社会実現に貢献することのできる実践型の人材の養成を目的とする。

■ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針) とカリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

| 共通コンピテンシー (能力・資質) | | | 定義 | ディプロマ・ポリシー | カリキュラム・ポリシー (編成方針) |
|-------------------|---|-----------|---------------------------------|-------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|
| DP1 | A | 幅広い教養 | リベラルアーツを目指した知識と思考力 | 多様な学問領域からの知識を融合させ、持続可能な社会の理解に役立つ教養を得ることができる。 | 人文科学、社会科学、自然科学に関する基本的な概念や理論を、幅広く理解し、社会事象を多角的に理解するための科目を配置する。 |
| | B | 専門知識・技能 | 当該分野において必要とされる知識と技能 | 環境調和型社会実現に必要な専門知識と技能を修得し、現実の社会問題に応用することができる。 | 社会事象を多面的に理解する上で必要な専門知識を理論と実践を通じて修得するための科目を配置する。 |
| DP2 | C | ライフデザイン力 | 自分の将来を設計・構想し、成長を目指すことができる力 | 社会の変化に合わせ自己実現に向けたキャリアを構想し、ライフスタイルを設計することができる。 | 主体的学習を通じて知識探求の重要性を認識し、学生生活やその後の人生についても洞察を深められるための科目を配置する。 |
| | D | メタ認知・実現力 | 自らを客観的に理解し、目標を実現できる力 | 自己理解を深め、適性も見極めながら目標を設定し、自己調整学修を実践することができる。 | 関心分野を見極めると共に、学修目標に向けて創造的に課題を克服するための科目を配置する。 |
| DP3 | E | グローバルマインド | 異なる背景や文化を持つ人々と積極的に関わり、協働できる力 | 多様な価値観やバックグラウンドを持つ他者を尊重しながら問題解決に向けて協働できる。 | 国際社会の現状と課題を理解し、課題解決に向け多様な価値観を持つ人々との協働を可能にするための科目を配置する。 |
| | F | 未来構想力 | より良い未来を構想し、新しい解を生み出す力 | 未来の社会を想像し、新たな価値を実現できる。 | 持続可能な未来に向けた新しい価値の創出に必要な思考力と創造性を構築するための科目を配置する。 |
| DP4 | G | デジタル力 | 数理の基礎知識を基に、情報を的確に整理・分析することができる力 | 数理やAI、データサイエンス、ICTの知識に基づいて、データを的確に分析し、状況を把握できる。 | 数理やAI、データサイエンス、ICTの基礎知識と応用能力を修得し、これを社会問題の解決に活用するための科目を配置する。 |
| | H | 発信力 | 自らの考えを適切に伝えることができる力 | 効果的なコミュニケーション能力を養い、論理的に情報を伝えることができる。 | 論文作成や発表に必要な文章力と自己表現力を向上させるための科目を配置する。 |

■カリキュラム・ポリシー（実施方針）**【学修方法】**

| | |
|---|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 知識の修得と能動的な学習態度の涵養のために、講義形式を併用しながらそれぞれの科目の特色を生かしたアクティブ・ラーニングや実践形式を取り入れる。 |
| 2 | 目指す将来のキャリアに基づく自己の課題や目標を考え、自己調整学習の習慣化を図るために、ゼミナールにおける指導とともに学修ポートフォリオを活用した日常的な学習記録の蓄積と、学修成果の振り返りを行う制度を正課内外で運用する。 |
| 3 | 大学での学びと社会とのつながりを知る機会を取り入れるとともに、異なる背景や文化を持つ人々と協働して課題解決を行うプログラムを実施する。 |
| 4 | 学修活動全般において、データサイエンスの見方を身に付け、情報を的確に整理・分析する機会や、適切なデジタルツールを用いて自らの考えを発信する機会を確保する。 |

【学修成果の評価】

| | |
|---|-----------------------------------------------------------------------|
| 1 | 各授業科目の学修内容、修得する知識・能力、到達目標、成績評価の方法・基準をシラバス等により学生に周知し、それに則した適切な成績評価を行う。 |
| 2 | ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の達成状況については、全学的な学生調査や卒業論文、卒業研究発表会等の成果物によって評価する。 |

■学修領域（教育分野）

- ①経営
- ②地域